

## 男女共同参画推進連携会議「女性の起業支援」チーム第1回会合議事概要

1. 日 時 : 平成28年11月18日(金) 10:00~12:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館5階共用会議室C
3. 議 題 :
  1. 開会
  2. 議事
    - (1) 女性起業家の取組事例について
    - (2) 女性起業家支援に向けた取組について
    - (3) 女性起業家等支援ネットワーク構築事業について
    - (4) 意見交換
  3. 閉会

#### 4. 出席者 :

(有識者議員)

飯田議員、上林議員、山屋議員、横田議員

(団体推薦議員)

青山議員、伊藤議員、高橋議員、糸数議員、山崎議員、谷本議員、名取議員

(外部有識者)

- ・株式会社セルフウイング 代表取締役 平井 由紀子氏
- ・ブリリアントアソシエイツ株式会社 代表取締役 福嶋 登美子氏

(関係府省)

- ・経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室／経済社会政策室 浅野 優子氏
- ・経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室／経済社会政策室 笹谷 朋子氏

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

#### 5. 議事概要

○議事(1)について、資料1に基づきセルフウイング平井氏より、資料2に基づきブリリアントアソシエイツ福嶋氏より、起業を決断した経緯や事業概要、事業を継続する上での課題等について、報告があった。

○議事(2)について、資料3に基づき、山崎議員より、全国商工会議所女性会連合会が実施している取組について、発表があった。

○議事(3)について、経済産業省浅野氏より、資料4に基づき、平成28年度より同省が実施している「女性起業家等支援ネットワーク構築事業」及び10月に開設した女性起業家支援サイト「わたしの起業応援net」について発表があった。

○発表等を踏まえ、質疑応答・意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・新規事業を立ち上げる際のポイントは何か。  
⇒（平井氏）自分が市場に詳しいか、商品の強みをよく理解しているのか、という2点が重要になる。既に自身が知識を有している分野や領域で事業を始めることが望ましい。
  - ・15年前後事業を継続される中で、どのような状況下、時期に最も苦勞したか。また、その際にどのような支援があったのか。  
⇒（平井氏）平成20年のリーマンショックを受け、それまでは創業や小学生向けの起業教育について理解が得られはじめ、自身の事業にとって追い風が吹いていたが、風潮が一変し、仕事が激減した。  
（福嶋氏）創業時に、いかに利益を上げるかを考えなければならないことに加え、家族の病気が重なったことが最も苦勞した。しかし、様々な支援機関が寄り添うように協力してくれたため、乗り越えることができた。事業が軌道に乗るまでは、飲食業で売り上げの予測が立てづらく借入も難しかったため、県の制度を活用して担保不動産を購入することで、対応した。また、人材確保については、中小企業基盤整備機構から4年間にわたり様々な専門家を派遣してもらい、伴走型で支援してもらった。また、経済産業省のものづくり補助金も活用することで、研究開発にも取り組めるようになった。
  - ・海外展開されているが、ニーズはどのように見出したのか。  
⇒（平井氏）日本の教育に価値を感じており、また教育に投資する個人が多い国にニーズがあった。
  - ・様々なテーマ・商品に取り組んでおられ、それぞれの専門家を確保するのが難しいのではないのか。どのような点に工夫されているのか。  
⇒（福嶋氏）1年間で4～5名の専門家に協力してもらっている。加えて、経済団体で培った人脈を活かして、協力先も広がっている。一方、具体的に事業を展開していく段階になると障壁もあり、地方自治体や中小企業基盤整備機構の支援策も上手く活用している。
  - ・女性起業家支援に関する情報を発信することが難しいと考えられるが、どのような点に工夫しているのか。  
⇒公的機関の既存のネットワークのみでは限界があるため、Facebookのハッシュタグを活用するなど、SNSを活用した情報発信を行っている。
  - ・中小企業家同友会では機関紙「中小企業家しんぶん」やウェブサイト「DOYU NET」、メールマガジン「DoyuNews」で起業を含めた経営全般の情報や経営実践事例を紹介している。また、全国の女性部役員が集まる連絡会で取り上げ、各地域の活動に展開することもできる。
  - ・短期大学ではキャリア講座があり、女性起業家が自身のキャリアや経験について語れば、後輩にとっての後押しになると考える。起業を将来の選択肢の一つとして考える契機が必要かもしれない。
  - ・起業後に女性が障壁に当たると、周囲の人が事業をやめた方が良く伝えるケースが多いが、実際はそれをサポートする人が必要。支援団体は、未だに男女共同参画の視点を有していないと感じることもある。  
また、失敗集を作成すれば、起業後悩んでいる人も課題を共有できると考える。
- ⇒女性起業家の成功事例のみならず、失敗事例も含めて情報を発信していきたい。
- ・15年間に渡り表彰制度を継続してきたが、受賞後の女性起業家をフォローする取組を実施していなかったため、追跡調査を進めている。今後は受賞者をサポートする仕組みを立ち上げたいと考えている。

・情報が届いていても、起業に向けて一歩踏み出すには、起業後の支援体制が整備されていることを示すことが必要。

・情報は伝わっているものの、それを気に掛けない人が多くいる。自分事として捉えてもらうことが必要だと考えている。

⇒創業支援機関などには足を運びづらい層にも関心を高めてもらうため、地域によってはショッピングモールでのイベントを実施予定だが、「起業」という言葉を使用するとハードルが高くなってしまうため、他の表現を使用する等の工夫をしている。

フォロー体制の整備については、地域のネットワーク代表機関とも連携を深め、検討を進めたい。

・本日はグローバルに事業を展開している方から発表いただいたが、次回会合においても、グローバルに事業を展開している女性起業家の取組をヒアリングすることはどうか。

・女性経営者全国交流会という行事を主催しており、毎年数名に事例報告をしてもらっている。その方々からヒアリングしてはどうか。また、報告書も作成しているため、参考にしてほしい。

・異なる業種と連携して女性起業家を支援している事例があれば、発表していただきたい。また、特に外資系企業が女性起業家支援に取り組んでいる。以前の会合でも民間企業の取組について発表してもらったため、進捗等も聞いてみたい。

・内閣府と経済産業省で連携し、情報の一元化や共有をして欲しい。また、各団体の取組や活動を女性起業家支援サイトに掲載する方法が分かりづらいため、どのような情報であれば掲載してもらえるのかがわかり易い形式にして欲しい。

⇒現状、ネットワーク支援事業に関するイベントのみ掲載している。今後経済産業省と内閣府で連携し、情報の掲載方法等、検討を進めたい。

○最後に横田議員より今後のスケジュールについて、平成 28 年度中に 1 回程度開催し、支援団体の取組や女性起業家の活動内容を紹介いただくこと、また、その後ヒアリングした方の事例をまとめる予定である旨の連絡があった。

以 上